

「ベトナム社会科学院・ハノイ国家大学サマースクールプログラム参加報告書」

京都大学工学部4年 石須 慶一

私は、今回9月14日から9月28日までの2週間ハノイ国家大学サマースクールプログラムに参加しました。はじめは、ベトナムという国は、歴史や地理の教科書で習うベトナム戦争をしていて、気候があたたかいという印象でした。国際的な人間になりたいと考え始めましたが、東南アジアの国々すら何も知らないという状態でそのように考えるのは非常におかしいはずで。そこで、今回のプログラムでは、ベトナムの文化や生活を学ぶことができ、なおかつベトナムの学生と交流できるということでベトナムを理解するのにとても適切なプログラムでした。

実習内容としては、1週目は、外国語大学で授業を受け、2週目は主に人文社会科学大学で授業をうけました。外国語大学では、日本語選択の生徒と一緒に授業に参加したり、ベトナム語を習ったりベトナムの歴史を学んだりしました。日本語選択の生徒はとても熱心に日本語を学んでいました。その姿勢はとても見習うものがあり、私の学習に対する気持ちを大幅に変化させるものでした。ベトナム語講座では、ベトナム語は相手に対して言葉を変化させるのが日本語と似ていました。ベトナムのホスピタリティは、日本と似ていると言いますが、言葉の点を考えても、日本と似ているのかと考えます。実地研修では、チャンアンという「陸のハロン湾」と呼ばれるところと古い町並みのダンロム村に行ってきました。チャンアンは、ボートにのり、洞窟を探検するような体験でした。洞窟はとても神秘的でベトナムの自然の美しさに感動しました。ダンロム村は、JICAも支援しているベトナムの古い町並みを観光地化したものです。現地の人の生活様式や伝統文化を学ぶことでベトナム内部の暮らしを知ることができ、とても斬新な体験でした。2週目は、人文社会科学大学でベトナムの成り立ちを学びました。その時先生がおっしゃられた「ベトナムは戦争が多いが、戦争は好きではない」という言葉です。とてもその言葉から考えることができました。

これらの研修から私は、ベトナムという国の良さを2週間という短い期間で見ることができました。また留学に行くなら必ず英語圏やヨーロッパと考えていましたが、東南アジアという選択肢も見えてきてとても自分の将来のビジョンを変える研修でした。京都大学は交換留学という形で様々な大学と提携を結んでいるのでそれも視野に入れて大学院に進もうと思います。この研修で語学を学ぶ意欲はすごく高まりましたので、今後英語を中心に語学の勉強を頑張っていきたい。